

記者懇談会の記録

日 時	令和 4 年 5 月 25 日 (水) 16 : 00~16 : 35
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-2・3-3
記者数	5 人

1 岩見沢市内における農作業（春作業）の進捗状況について

(市長)

春の農作業等の進捗状況でございます。資料に基づきまして、1の融雪期ですが、今年は平年並みの4月5日に融雪期を迎え、4月上旬から春作業は概ね平年並みに順調に推移をしている状況です。

空知農業改良普及センターが、5月15日現在で取りまとめた農作物の生育状況調査によると、2にありますとおり、水稻につきましては、播種作業が4月23日から始まり、平年より2日遅い4月28日に終わっています。

また、苗の生育は順調で、田植えは5月14日から始まり、現在市内全域で移植作業も順調に進み、おそらく今週中には終了するのではないかとこのころです。昨日私も田植えの状況の視察に行きまして、農家の方からいろいろとお話を聞いたのですが、そのような状況です。今後、秋に向けての豊作、努力と汗が実るような豊穡の秋を迎えたいと願っています。

3の玉ねぎですが、移植が4月17日から始まりまして、平年より3日早い4月28日に終了しています。移植後は、少雨により活着が遅れたため、生育の停滞が見られましたが、5月上旬の適度な降雨により、順調に活着しているという状況です。今週末雨の予報が出ていますので、畑にとっては恵みの雨になるかと思えます。

4の秋播き小麦ですが、一部の農地で雪解け水の帯水による冬損がみられましたが、雪腐病(ゆきぐさればょう)の発生は平年よりも少なく、2日程度早く順調に生育しているところではあります。

< 質疑応答 >

(読売新聞)

玉ねぎは北見が有名だとは聞いていましたが、空知管内はどれくらいの生産ですか。

(市長)

かつて岩見沢は北海道で1番の玉ねぎの産地だった時期もあるのですが、現在は道内4番目の産地です。南空知では岩見沢以外でも玉ねぎ生産はありますが、そんなに量はないかと思えます。

2 新型コロナワクチン4回目接種について

(市長)

そもそも4回目の接種の目的なのですが、コロナウイルス感染症にかかった場合の重症化予防

のためとされているところですが、現在岩見沢市内で接種対象者は約3万5千人を予定しています。その対象者は、60歳以上の方、それから18歳以上60歳未満で基礎疾患を有する方、その他重症化リスクが高いと医師が認める方が対象となります。その数が約3万5千人と見込んでいるところです。

使用するワクチンは、ファイザー社製とモデルナ社製の2種類を使用します。接種間隔は3回目の接種から少なくとも5か月経過した後からとなり、接種開始時期は、岩見沢市も医療従事者、高齢者施設の入所者から先に、1回目2回目の接種をしていますので、その方々から始まりまして5月28日から、それ以外の方につきましては、5か月が経過する7月4日から接種を開始する予定です。全体としては8月末で終了予定と考えています。

接種体制は、高齢者施設等での接種と市内の医療機関25か所での個別接種を予定しています。1週間あたり約3千回の接種を予定して進めていきたいと思っています。なお、集団接種では、引き続き9月末までは5歳から11歳の方の1回目と2回目、それから12歳以上の方の接種を実施していくということで考えています。

そこで、接種券の発送ですが、岩見沢市のやり方としては、60歳以上の方と18歳以上60歳未満で、1、2回目の接種の時に基礎疾患があると申請された方へは、接種時期の到来前に、順次こちらから接種券を送付いたします。

また、前回申請がない18歳以上60歳未満の基礎疾患がある方、転入された方、さらには新たに基礎疾患を有することになった方が対象となりますが、この方々は、別途申請が必要となります。申請の内容につきましては、案内のチラシと申請書を同封して、各個人宛てに郵送で行う予定としています。

なお、4回目接種の流れ等は、次のページに広報いわみざわの原稿を添付していますので、参考にさせていただきたいと思います。

<質疑応答>

(北海道新聞)

基本的なところから教えてください。ワクチン2種類ですが、今は確か、月別だったかと思うのですが、ファイザー、モデルナ選べるのか、もしくは時期により決まっているのでしょうか。

(市長)

選択制ではなくて、接種日に用意したワクチンを接種いただくことで考えています。

(北海道新聞)

当日、接種に行ってみてわかるということでしょうか。

(健康福祉部長)

予約時には、どのワクチンかわかるようになっています。

(北海道新聞)

予約時にわかるというスタイルを引き続き4回目も、ということですか。

(市長)

はい。

(北海道新聞)

先ほど市長は4回目の接種を8月末までとおっしゃったかと思うのですが、9月に5か月を迎える人は接種の対象外ということでしょうか。

(市長)

いえ、2回目を終えられた方で、3回目から5か月経った方が順調に進めば8月末でほしい接種を終えることができるということなのですが、ただ、その後も接種のご希望のある方がいらっしゃる場合は、引き続き個別接種で対応させていただきます。順調に行けば8月末で完了できるのではないかと考えています。

(健康福祉部長)

3回目の接種を通常の時期に受けていただいた方は8月で終わりますが、個人の事由があって、遅く1、2回目、3回目を受けた方もいらっしゃいますので、完全にやめるということではなく、それは続けていく予定です。

(北海道新聞)

広報の資料ですが、これを見ると、基本的には2回接種が済んだ方には、全員に何らかの案内が届いて、その中で申請が必要な人は、案内の中にあるものを郵送で送り返してくださいという読み方でいいですか。

(市長)

まず60歳以上の方については、接種券をプッシュで送ります。それから1回目と2回目で基礎疾患があるという申請を頂いた方についてもプッシュで接種券を送ります。新たに基礎疾患を有することになった方や、重症化リスクが高いと医師が認める方などのためには、申請書を同封して4回目接種のお知らせの文書を送ります。そこで、基礎疾患が新たにある方は、申請書をお出してください。あるいは医師に重症化リスクがあるということで接種を勧奨された方についても出してください。それから、新たに転入された方もいらっしゃるなので、1、2回目、3回目を岩見沢で受けていない方に対しても周知をする意味でご案内します。

基礎疾患のあるなしは、申請をいただいていた方以外についての現状が、私どもには分からないので、4回目接種のお知らせと申請書を同封して全員に郵送するということになります。

(北海道新聞)

部長にお聞きしますが、最新の3回目の接種の状況は分かりますか。

(健康福祉部長)

5月24日現在で人数が51,004人、うち高齢者が25,999人です。率については、住基人口を基にした接種率でいきますと、全体で64.3%、高齢者が86.5%です。

(北海道新聞)

64.3%は全人口に対する割合ですか。

(健康福祉部長)

はい。全人口に対する割合です。

(北海道新聞)

64.3%という数字は、ご理解ご協力いただいているということでしょうか。

(市長)

ご協力いただいていると思います。

(健康福祉部長)

2回目接種された方のうちで言いますと、76%の方が既に3回目接種を終えています。まだ上がってくると思います。

(読売新聞)

追加なのですが、64.3%という数字の年代別が、もしあれば教えてください。若年の方が少ないなど、もし分かれば。

(健康福祉部長)

64.3%というのは昨日現在ですが、年代別の集計は毎日出していませんので、月曜日の数字でいいでしょうか。12～17歳が23.5%、18～19歳が27.2%、20～29歳が37.4%、30～39歳が45.1%、40～49歳が59.3%、50～59歳が72.8%、60～64歳が83.0%、65歳以上が89.8%です。同じ時期に国と道が年代別の接種率を出していると思いますので、比較していただければ、おおよそ分かるかなと思います。

(読売新聞)

きれいに若年になるに従って低いですね。

(健康福祉部長)

岩見沢市の場合、上の年代から順に接種券を発送していますので、若年層はまだ打っていない、予約中という方が増えるということはありません。

(読売新聞)

若年者の接種率アップ対策は何かされていますか。

(市長)

若年者は副反応で翌日の学校に影響が出るということも想定されたので、土曜日の集団接種を実施しています。土曜日に接種していただいて、日曜日は安静にさせていただいて、ということで。

(健康福祉部長)

土曜日の9時半から5時半まで若年層のために用意しています。あとは、道で若年層向けのチラシを作っていますので、4回目の接種の案内を送る際に、30代以下の方で、2回目までの接種しか受けていない方について、このチラシを個別に同封して勧奨を行う予定です。

(読売新聞)

土曜日の接種を推奨しているというのは、小、中、高校生とかはあるのでしょうか。

(健康福祉部長)

主に5歳～11歳がメインで、その他12歳以上、中、高生です。一般の方が打てる日もありますが。

(読売新聞)

集団接種を推奨しているというのは、接種場所はそれぞれの学校でということでしょうか。

(健康福祉部長)

“いわみざわ健康ひろば”という市の施設で行っています。

(北海道新聞)

4回目接種のお知らせを18～60歳未満の方に送るといふ、この発送はいつになるのでしょうか。

(健康福祉部長)

発送は来週からの予定です。60歳以上の方にも、接種券が届くまでにまだ時間がありますので、お知らせは送ります。お手元の資料、お知らせ文の1枚目が60歳以上と基礎疾患の申請を既にされている方用のもので、2枚目が申請の必要な方用です。

(北海道新聞)

では、お知らせは来週以降、順次発送して、通知をするということですね。

(健康福祉部長)

はい。接種券は5か月が経過する前に、予約期間を含めて間に合うように順次送付します。

(北海道新聞)

なので、一般の方は6月中旬以降ということですね。

(市長)

はい。

(読売新聞)

接種日の予約の時に、その日であればワクチンはモデルナでとか、ファイザーでとかが分かるということでしたが、モデルナと言われてから、その日モデルナなら別の日にしてくださいというのは認めないということでしょうか。

(市長)

変更はできます。

(健康福祉部長)

今までも何人かいらっしゃいました。どうしてもファイザーがいいとか。ただ高齢者の方は、おかげさまでほとんど、モデルナ、ファイザー関係なく打っていただいています。全国的にはモデルナが廃棄という話もありますが、岩見沢市は廃棄ゼロで来ています。

(読売新聞)

他の自治体では使用期限を迎えて廃棄という話も聞きますが、岩見沢は今のところ、それはないと。

(健康福祉部長)

今のところは出ていないです。本当に急なキャンセルで1、2回分廃棄になったということはありませんが、使用期限が来て余っていて廃棄というのは今のところゼロです。

(読売新聞)

ある種、順調に接種は進んでいると。

3 その他（市議会第2回定例会に上程予定の経済対策に係る補正予算について）

(市長)

私から、追加案件という訳ではないのですが、1点ご説明させていただきたいと思います。

6月13日から議会の第2回定例会が開会予定ですが、そこに一般会計の補正予算を上程する予定です。その主な内容として、コロナ禍における原油価格、物価高騰等総合緊急対策、これは国が4月に決定しましたが、それを受けて補正予算案を編成し、6月に開会する市議会第2回定例会に提案をするということになります。

市独自の経済対策の内容として、コロナ禍が長引いているということ、物価高騰等の影響を受けている市内経済の活性化、更には市民生活の支援を目的としたもので、一つはプレミアム商品券を発行いたします。さらにもう一つは、運送業や製造業など、原油価格等の高騰が経営に大きく影響を与える業種を対象として、従来から行っております経営サポート給付金の支給、それから、資材費の高騰や、昨シーズンの豪雪の影響によって非常に申請が多かったプレミアム建設券の発行です。今年状況を見ますと、1回目の申請自体は、昨年を上回る申請があつて、今現在6月1日から2回目の申請を受け付ける予定なのですが、残りの口数をオーバーすることも十分懸念されるので、全体の発行口数を4,200口増やして、全体では15,000口で、3回目の申請という追加支援体制を、今具体的に商工会議所と協議を進めておりますので、その予算案をまず議会に出させていただいて、議決いただければ直ちにその作業に入りたいと考えています。

従いまして、詳細はまだ現在詰めているところですが、今申し上げた独自の経済対策3本で約4億円を超える予算規模になるかと検討しています。

それから、独自の経済対策の他に、当然ながら、低所得の子育て世帯等に対して、児童1人当たり5万円を支給する子育て世帯生活支援特別給付金や、住民税の非課税世帯等に対して10万円を支給する臨時特別給付金など、国による施策に係る経費やその他の補正も併せて計上する予定です。補正予算の規模は独自の経済対策に、これらの必要な経費を上乗せした額になります。できるだけ早く、経済対策の分については早急に実施ができるように、今いろいろと協議調整中です。当然、子育て世帯等への給付金の支給も急ぎたいと考えています。

<質疑応答>

(北海道新聞)

詳細はこれから設計している段階ということですが、あまり後ろにずらすと効果も薄い部分が

あるかと思うのですが、できればこのくらいまでには実施したいという思いをお聞かせください。

(市長)

6月13日から議会が始まる予定ですが、先議していただくことも含めて、今調整しています。定例的には議会の最終日に補正予算の議決、議決案件は最終日なのですが、開会して速やかに先議をしていただいて、可決いただければその分、約2週間早く作業に入れますので、そういった調整をしています。

(北海道新聞)

経済対策だけで4億円と、それ以外もあるということ。

(市長)

あります。先ほど少し申し上げましたが、経済対策以外に、子育て世帯、住民税の非課税世帯、生活困窮者に対する支援、そういったものも全て含みますので、補正予算総額としては減の整理もありますが、今のところ想定しているのは、4億円を若干超える経済対策に、それ以外で計6億円くらいでしょうか。

(北海道新聞)

子育てや生活困窮者への支援は、国の施策のということですか。独自ではなく。

(市長)

そうです。

(副市長)

まだ総額はこれからというところです。

(市長)

事業のでこぼこもならした上での金額になりますので、まだこれからです。

(北海道新聞)

プレミアム建設券は1回目で1.5倍ほどの申し込みがあつて、かなり外れた方も多かつたと思いますが、そういった需要の多さというところも、一つ大きな今回の判断材料となつたのでしょうか。

(市長)

そうですね、一つは需要の多さが見込まれるということと、これから原油高もそうですし、資材の調達費も上がってきて、長期的に影響を与えるだろうということを懸念していますので、できるだけ早く事業として実施できれば、それだけ負担も少なくなるので、今回の原油価格等の高騰を受けて、市としての独自の経済対策を打つというようなことで考えています。

(読売新聞)

プレミアム建設券の概要を教えてくださいませんか。既に広報などに出ているのでしょうか。

(市長)

この事業は平成28年度から始めた事業になります。総合戦略事業に位置付けて実施していて、予算規模は変わっていますが、基本的な概要を申し上げますと、1口5万円、お一人の最大購入

口数 20 口までで 100 万円、そこに 15%のプレミアムを付けるということで、100 万円のご負担で 115 万円の建設工事ができるということになります。そのプレミアム分について、市の方で支援をして、特に昨年は豪雪の被害で住宅被害がかなり多かったので、1 万 9 千口のご応募があって措置をしたのですが、今回はコロナ禍における価格の高騰、物価高という影響があり、尚且つ、冒頭申し上げましたとおり、昨年の 1 回目の応募状況を上回る応募がありましたので、これから 2 回目の応募が始まりますが、オーバーフローするのではないかという懸念もありますし、これが来年になりますと資材費もまた上がるということで、事業についても困難になることも考えられますので、今年措置できるものは措置をして、事業実施させていただきたいと考えています。

(読売新聞)

この経営サポート給付金というの、同様に何年か行っているのですか。

(市長)

経営サポート給付金は、国の持続化給付金と並行して、岩見沢市内、中小企業がほとんどですが、飲食を含めたコロナ禍での経営の影響、前年同月比 20%以上の減であれば、要件に合致するという事で定額の補助をしています。飲食業は過去 3 回、必要な都度実施していますし、宿泊業、大規模宴会場など措置をしているところです。それを、今回の物価高についても拡充をして適用することで考えています。国の持続化給付金が、前年同月比で確か 50%以上の減収ということでハードルが高かったので、20%以上であれば 50%までの間を救うという考えです。

3 その他（記者からの質問等）

(北海道新聞)

ジョインライブが、去年ぎりぎり中止になりましたけれども、今年こそ 3 年振りの開催を目指すということで先日発表があって、その他のいろいろなお祭りも、市の 5 大祭りも含めて 3 年振りというのが増えてくるのかなと思うのですが、なかなか市民の方も明るいイベントに接する機会がなかったこの 2 年間で踏まえて、今年はイベント実施に至ってほしいというような市長の思いと言いますか、言葉を頂ければと思います。

(市長)

本当にコロナ禍で、特に大規模なイベントほど中止という状況で、市内の百餅祭りも含めて全てのイベントが中止という状況でしたけれども、これからはウィズコロナということで、感染防止のための対策を徹底した上で、やはりイベント等についても安全にお楽しみいただけるような環境を提供していきたいと考えています。当然、市としてもできることは最大限協調、連携をして行ってまいりますし、ぜひ、そういう夏になってほしいなと思っています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)